

戸田工業株式会社 大竹サイト

作成日：2023年10月24日

環境活動報告書（2022年度）

1. 大竹サイトの概要
2. 大竹サイトの沿革
3. 安全衛生・環境・品質方針
4. 環境マネジメントシステムの状況
5. 環境目標、計画および実績の総括
6. 環境に関する規制順守の状況
7. 環境負荷の低減に向けた取組みの状況
8. 環境保全のための技術・製品・サービスなどの研究開発状況
9. 環境情報開示、環境コミュニケーションの状況
10. 地域との交流、社会貢献活動

——この報告書に関する問合せ先——

大竹サイト ISO 管理責任者

TEL 0827-57-3616 FAX 0827-57-3559

E-mail Webmaster@todakogyo.co.jp

# 1. 大竹サイトの概要

- 1) サイトの範囲： 戸田工業株式会社 大竹事業所  
戸田工業株式会社 大竹創造センター
- 2) 代表者氏名： 笠原英樹（大竹事業所長）  
松岡 大（創造本部長）
- 3) 所在地： 広島県大竹市明治新開1番4  
TEL 0827-57-3616 FAX 0827-57-3559



大竹サイト空中写真

- 4) 事業概要：
- (1) フェライト磁性粉末、フェライトボンド磁石用のコンパウンド及び酸化鉄コンパウンドの設計・開発及び製造
  - (2) 希土類異方性粉末及び希土類ボンド磁石用コンパウンドの設計・開発及び製造
  - (3) 電子写真用複合材料の設計・開発及び製造
  - (4) 粉体塗料の製造
  - (5) フェライト磁性粉末を用いたグリーンシート及びグリーンシート加工品の設計・開発及び製造
  - (6) 機能性酸化物及び機能性複合材料の設計・開発

- 5) 報告対象期間 : 2022 年度
- 6) 事業規模 : 大竹事業所出荷量 16,168 t /年
- 7) 従業員数 : 大竹創造センター 111 人  
 (2023 年 1 月時点) 大竹事業所 67 人 (他部署常駐者を含む)  
 構内協力会社・派遣・パート社員 181 人
- 8) 敷地面積 : 敷地面積 約 9 万 4 千 平方メートル  
 建築面積 約 2 万 7 千 平方メートル

## 2. 大竹サイトの沿革

- 1984 年 (昭和 59 年) : 大竹事業所開設、ボンドフェライト用磁性粉を製造開始
- 1985 年 (昭和 60 年) : 磁気記録用磁性粉を製造開始
- 1992 年 (平成 4 年) : ボンドマグネット用ペレットを製造開始
- 1993 年 (平成 5 年) : プリペイドカード用磁性粉を製造開始
- 1996 年 (平成 8 年) : ダイオキシン抑制機能フィルム用マスターバッチを製造開始
- 1997 年 (平成 9 年) : 重合キャリアを製造開始
- 1998 年 (平成 10 年) : ISO 9001 認証取得 (登録 No.JQA-2543)
- 2000 年 (平成 12 年) : 大竹創造センター開設  
粉体塗料を製造開始
- 2001 年 (平成 13 年) : 第一種電気管理工場に指定  
LPG コージェネレーション設備を設置
- 2002 年 (平成 14 年) : ソフトフェライトを製造開始  
土壌浄化用材料無機酸化物系化合物を製造開始  
ISO 14001 認証取得 (登録 No.JQA-EM2906)
- 2003 年 (平成 15 年) : 第一種熱管理工場に指定  
道路用着色材料を製造開始  
本社 大竹サイトへ移転
- 2004 年 (平成 16 年) : ナノサイズ銀粒子を製造開始
- 2006 年 (平成 18 年) : フェライト焼結基板の量産開始
- 2007 年 (平成 19 年) : 創造センター評価棟を追設
- 2008 年 (平成 20 年) : 太陽光高反射顔料の上市
- 2011 年 (平成 23 年) : スマートフォン用 NFC フェライトシート製造開始
- 2014 年 (平成 26 年) : 本社 広島市へ移転
- 2015 年 (平成 27 年) : OHSAS 18001 認証取得 (登録 No.JQA-OH0263)
- 2019 年 (平成 31 年) : 異方性ネオジム鉄ボロン磁粉を製造開始
- 2023 年 (令和 5 年) : IATF 16949 認証取得 (登録 No.JQA-AU0457)

### 3. 安全衛生・環境・品質方針

#### 【方針】

- ・ 事業活動において、働く人の労働安全衛生を最優先します
- ・ 当社の全ての事業活動が地球環境に及ぼす影響を常に考慮し、環境汚染を予防します
- ・ 市場や顧客ニーズの変化に対応し、お客様の信頼と満足を得る品質を追求します

#### 【活動指針】

- 1) 負傷及び疾病を防止するために、健康的で快適な職場環境をつくる。
- 2) 安全と健康の確保は、良好なコミュニケーションのもとに実現されるとの認識に立ち、働く人との協議と参加を尊重する。
- 3) 全ての職場でリスクアセスメントを実施し、安全で快適な職場づくりを推進する。
- 4) 全ての事業活動において環境並びに生物多様性に与える影響を把握し、環境汚染の予防やエネルギー及び資源の有効活用など、それらの影響の継続的な削減に努める。
- 5) 現在及び将来の事業活動において適用される法規制及び当社が同意するその他の要求事項を順守する。
- 6) 上記の活動を推進するため、MS（マネジメントシステム）の継続的改善を図る。

改定日：2023年4月1日

戸田工業株式会社 大竹事業所長  
創造本部長

## 4. 環境マネジメントシステムの状況

- 1) システムの構築状況 ISO 14001 認証取得  
(登録 No.JQA-EM2906:2002.12.27)
- 2) 環境方針 “3. 安全衛生・環境・品質方針”を参照
- 3) 環境管理組織体制
  - (1) ISO 管理責任者 品質保証グループ
  - (2) 環境担当部署
 

産業廃棄物管理責任者	:	業務グループ
化学物質管理責任者	:	品質保証グループ
エネルギー管理者	:	生産技術 2 グループ
  - (3) 環境に関する委員会
 

ISO 委員会:	ISO マネジメントシステム全般に関する委員会
CSR・環境委員会	国内グループの環境に関する委員会
  - (4) 環境に関する会議体
 

ISO 委員会:	半期毎に各部門における進捗状況を報告し対応を検討します。
マネジメントレビュー:	毎年サイト全体の進捗状況並びに環境に関する状況の変化を報告し対応を検討します。
CSR 委員会:	毎月国内グループの CSR・環境に関する状況を報告し対応を検討します。
- 4) 実施状況の把握・是正などに関する仕組み
 

月次の実績検討会で各部門における環境目標の達成度を確認、検証し必要な場合は軌道修正します。

PDCA のサイクルで業務を推進します。

法規制の制改定は情報サービス会社から逐次情報入手し速やかに対応する仕組みを構築しています。
- 5) マネジメントシステムの監査
  - (1) 外部審査団体（一般財団法人日本品質保証機構 JQA）による ISO 14001 の定期審査を受審し、システムの適合性を確認しました(登録更新日 2023 年 6 月)。
  - (2) 内部監査とマネジメントレビューを年一回実施し、システムの適合性を維持し、継続的改善を図っています。
- 6) 環境マネジメントシステムの導入・認証取得などの状況・計画
 

ISO14001:2015 への移行は、2018 年 6 月に完了しています。

IMDS（International Material Data System）に登録し、世界の自動車産業向けの有害物質管理システムに従って欧州 ELV 指令に対応しています。
- 7) その他環境保全への取組み
 

当社では CSR・環境グループを設け、全社を挙げた「省エネルギー」、「ゼロエミッション」への取組み体制を構築しています。

また、CSR 評価サービスの EcoVadis や、CDP の気候変動質問書審査を受け、その結果をフィードバックする事で、取組みのレベルアップを進めています。

## 5. 環境目標、計画および実績の総括

### 1) 省エネルギー

#### (1) 計画・目標

2022年度のエネルギー原単位を2021年度実績の99%以下にすることを目標としました。

※エネルギー原単位：総エネルギー量(原油換算)÷売上金額

#### (2) 取組み内容

##### ①「管理標準」の運用

大竹サイトはエネルギー管理指定工場に指定されています。エネルギー消費設備ごとに省エネ「管理標準」を定め、運転条件の管理、計測記録、保守管理などきめ細かく運用しています。

##### ② エネルギー消費設備の改善など

ボイラを高効率のものに更新しました。そのほか、エアコンを交換可能なものから高効率のものに更新、照明も交換可能なものからLED照明に変更しています。

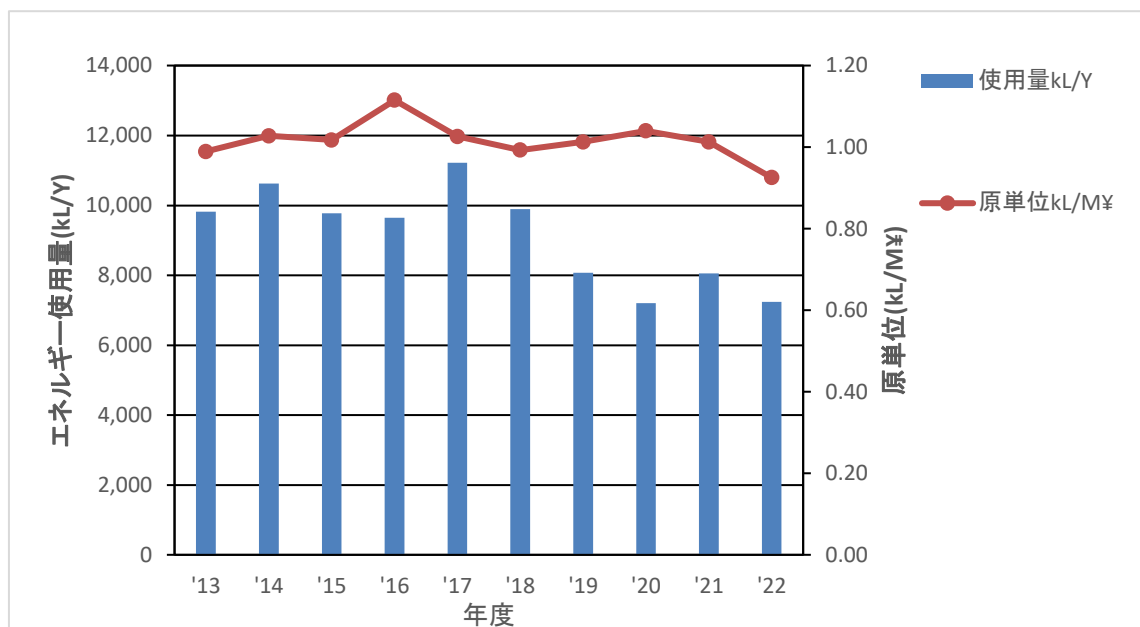
##### ③ 省エネ提案活動

サイトメンバーからの省エネに関する提案や改善活動を奨励しています。

#### (3) 実績および評価

2022年度エネルギー原単位は、エネルギー使用量を前年度より抑制でき、前年度比の目標99%以下に対して実績91.4%と良好な結果となりました。

エネルギー原単位 ( )内は前年度比%	2021年度	2022年度
目標:昨年度比 $\leq$ 99%	1.013(97.4%)	0.926(91.4%)



エネルギー使用量と原単位

## 2) 温室効果ガス削減計画

- (1) 大竹サイトから排出される温室効果ガスの種類は二酸化炭素が大部分を占め、メタン、一酸化二窒素の排出はわずかであり、HFC、PFC、六フッ化硫黄は排出していません。従って温室効果ガス削減の手段としては省エネ活動が主体になります。

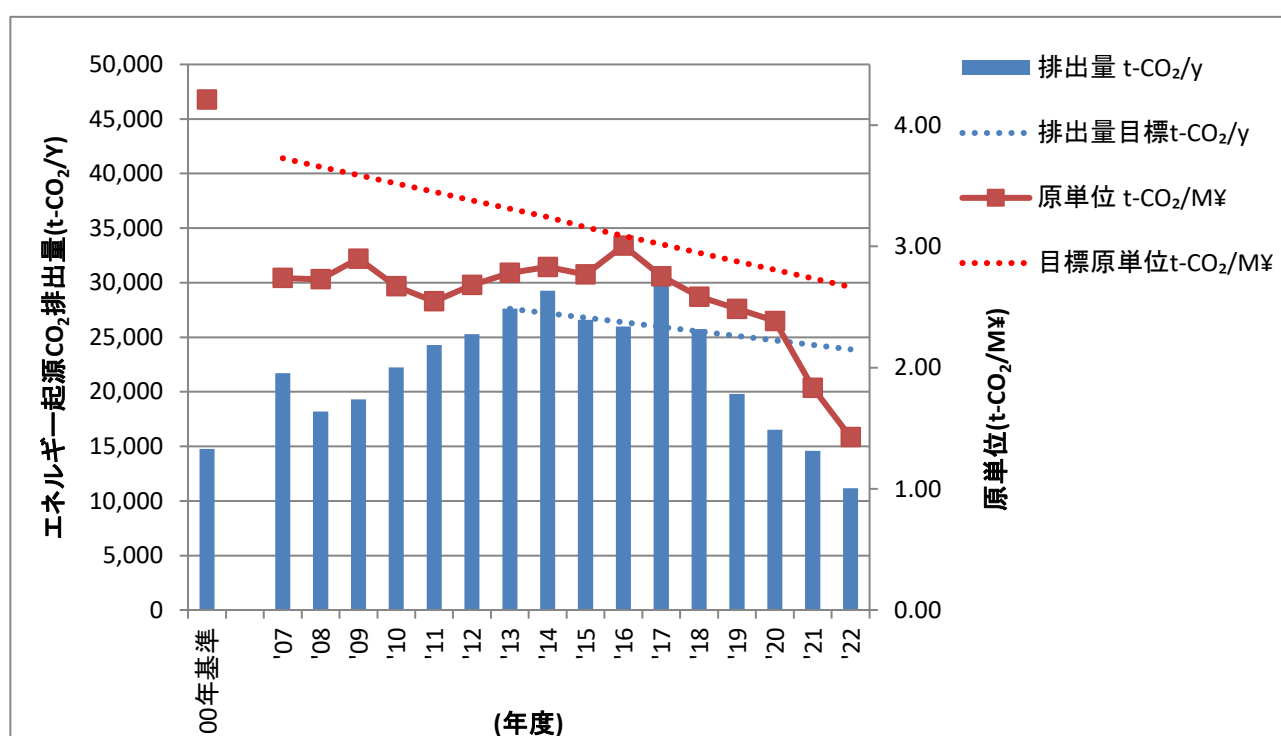
2022 年度には、GHG 第三者認証を目指してコンサルタントを受け、温室効果ガス排出源を見直しました。その結果、非エネルギー起源の割合は 2.5%程度と小さいことを確認しています。

- (2) 温室効果ガスの排出量原単位(t-CO<sub>2</sub>/M¥)を、2000 年度(原単位 4.21)を基準として 2022 年度(2.67)までに 36.7%削減するように計画しています。\*

2021 年度からは外部調達電気を非化石比率の高い電力メニューへ転換することを進めています。

その結果、大幅に削減でき、2022 年度の実績は 1.43 と目標を達成しています。

(\* 【広島県】温室効果ガス削減計画・実施状況報告書より)



エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量と原単位

## 3) 廃棄物の排出抑制・リサイクル促進

## (1) 計画・目標

製造部門の歩留まり向上を追求することで製造廃棄物原単位を前年実績以下に改善することを目標にしました。

## (2) 取組み内容

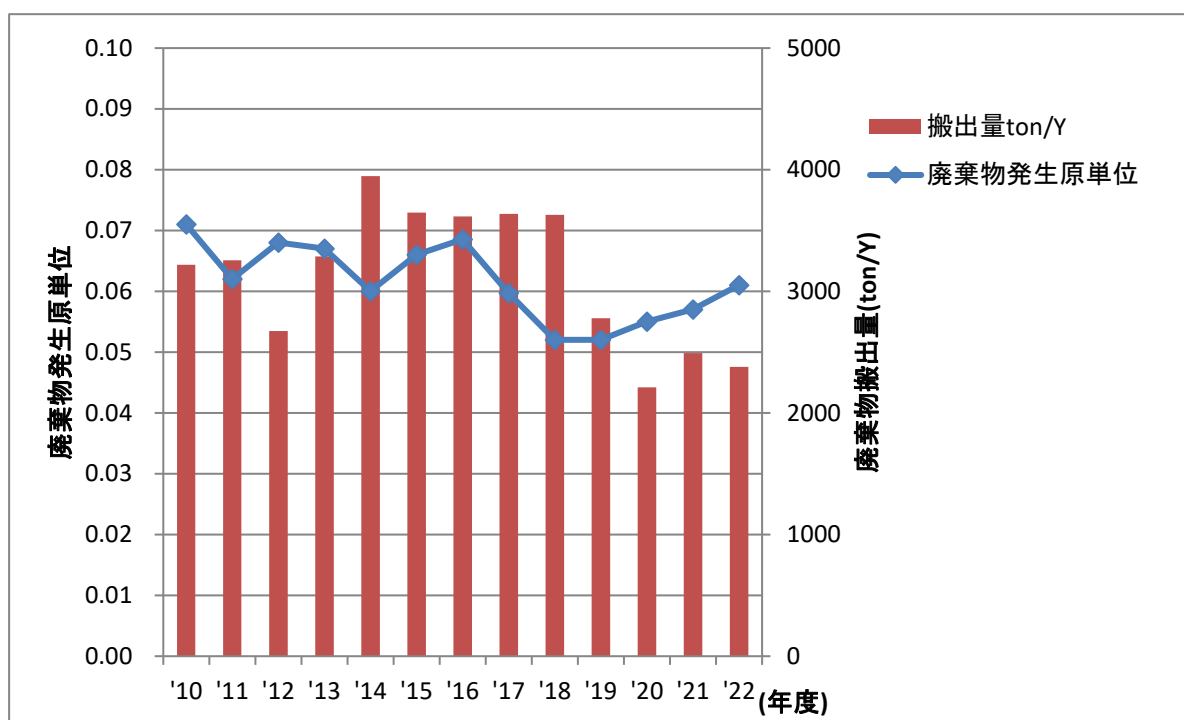
- ① Reduce（発生抑制）と Reuse（回収再利用）を推進しています。
- ② セメント原料、混合燃料などの用途への Recycle（リサイクル）を推進し、最終処理を再生利用業者に委託することでゼロエミッション化を進めました。
- ③ 廃棄物の有価販売などを進め、廃棄物を削減しています。

## (3) 実績および評価

製造廃棄物原単位は 2019 年度まで減少しましたが、2020 年度以降、前年度実績以下は未達となりました。2022 年度は工場の改修のため悪化しました。

産業廃棄物は全て適正に処理し直接埋立量ゼロを 2008 年度以降継続しています。

年度	廃棄物発生原単位(-)	搬出量 (ton/Y)	直接埋立量 (ton/Y)
2015	0.066	3646	0
2016	0.069	3615	0
2017	0.060	3637	0
2018	0.052	3628	0
2019	0.052	2780	0
2020	0.056	2210	0
2021	0.057	2492	0
2022	0.061	2380	0



製造廃棄物発生原単位と廃棄物搬出量



## 6. 環境に関する規制順守の状況

### 1) 環境に関する規制順守の状況

大竹サイトでは、2022 年度も環境関連法規からの逸脱はありませんでした。

大竹サイトが管理対象としている主な環境関連法規制は以下のとおりです。

法律などの名称	対応・順守状況
環境基本法	基本法として管理しています。
生物多様性基本法	基本法として管理しています。
大気汚染防止法	大竹サイトは燃焼炉を有し排出ガス量は約 4,300Nm <sup>3</sup> /h であり、大気関係のあらゆる規制を順守しています。
水質汚濁防止法	大竹サイトの排水総量は平均約 800m <sup>3</sup> /日であり、水質関係のあらゆる規制を順守しています。
瀬戸内海環境保全特別措置法	大竹サイトは瀬戸内海に面しており、適用を受け、順守しています。
騒音規制法	大竹サイトは工業専用地域にあり国法の規制は受けませんが大竹市との間に協定を結び敷地境界での騒音値を監視しています。
振動規制法	大竹サイトは工業専用地域にあり国法の規制は受けませんが大竹市との間に協定を結び敷地境界での振動を監視しています。
悪臭防止法	大竹サイトは大竹市との間に協定を結び敷地境界での悪臭を監視しています。
広島県公害防止条例	大気・水質・騒音・振動・悪臭についての規制を順守しています。
大竹市「公害防止に関する協定書」	大気・水質・騒音・振動について協定を結んでいます。全ての協定値を満足しています。
工場立地法	当工場は工業専用地域内にあり、約 9 万 4 千 m <sup>2</sup> の敷地を有する特定工場です。
建築基準法	大竹サイトの建築面積は約 2 万 9 千 m <sup>2</sup> (延床面積約 3 万 9 千 m <sup>2</sup> ) です。建築基準法を順守して工場建物を建設して維持しています。
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR 法)	大竹サイトでの該当する物質については 2000 年度より準備を開始し、2001 年度より排出量などの把握、届出を適正におこなっています。
労働安全衛生法	安全管理者・衛生管理者・産業医を選任し、月例の安全衛生委員会会議を開催しています。また特定化学物質、有機溶剤、ボイラ、圧力容器の取扱作業主任者を選任し、安全衛生教育、作業環境測定、健康診断などいずれも適正に実施しています。
毒物及び劇物取締法	劇物の取扱いがありますので、適切に管理を行なっています。
消防法	大竹サイトでは危険物施設 (貯蔵所 10, 取扱所 4) を有します。危険物予防規程を設け、危険物取扱者を適宜選任して安全を期しています。防火管理者を中心に自衛消防隊を組織しており、消防・防災計画に従って防災訓練を毎年実施しています。

高圧ガス保安法	2018年度には新たに第一種貯蔵所(アルゴンガス、窒素ガス、水素ガス)を設置しました。高圧ガス危害予防規程を定め、保安教育の計画実施、自主検査の実施、緊急時の連絡体制を整備しています。
エネルギーの使用の合理化に関する法律	大竹サイトはエネルギー管理指定工場であり、エネルギー管理者を選任し、省エネ基準および目標に対する取組みをおこなっています。
電気事業法	大竹サイトは特別高圧で受電しており、電気主任技術者を選任し、電気保安管理しています。
循環型社会形成基本法	基本法として管理しています。
建築工事に係る資材の再資源化等に関する法律	工場建屋新設・解体時には届出し、廃棄物の再資源化に努めています。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物処理責任者および特別管理産業廃棄物責任者を選任し廃棄物を適正に処理しています。

## 7. 環境負荷の低減に向けた取組みの状況

### 1) 環境潜在リスクが高いと評価された設備・工程

環境影響評価により大竹サイト内において環境潜在リスクが存在すると評価された工程は排水処理工程、LPG タンクなどがあります。具体的に想定される緊急事態には灯油、LPG など危険物による火災、また化学物質流出による海洋汚染リスクがあります。

この潜在リスクを発現させないため、保安体制を整備し、日常点検および定期的な詳細点検を実施し、異常に対して迅速な対応が取れるよう緊急連絡網を定めています。

また、新規設備の導入時には環境アセスメント評価を実施し、導入可否および安全対策を検討しています。

### 2) 総合防火防災訓練

毎年大竹サイト全体で、地震による①人的被害②火災発生③建物被害を想定して、避難、救助、消防などの訓練を行っています。



救助訓練



初期消火訓練

### 3) 化学物質の管理

#### (1) 取組み内容

大竹サイトでは環境汚染の予防に取組みます。そのために法規制に準拠した化学物質管理体制を整備して安全管理を徹底しており、また万一の緊急事態に備えて定期的に対応訓練しています。

当社製品には電気・電子機器用途が多く、含有物質に関して種々の規制があります。顧客から原材料を指定される場合を除き、RoHS 指令より厳しい自社含有物質基準を定め、それぞれの顧客基準を満足するよう、開発、原料管理、生産管理、出荷など全てのプロセスにおいて仕組みを作り維持しています。

#### (2) 実績および評価

適正保管、表示、監視点検実施、SDS の整備、保護具着用、環境関連物質含有の把握など化学物質管理体制を整備し汚染の危険を低減しました。PRTR 第一種指定化学物質の対象物質を取扱い、それらの排出量および移動量を毎年適正に報告しています。2022 年度は下表 12 物質について届出しました。

表 PRTR 法対象物質の移動量と排出量(2022 年度)

指定化学物質		移動量(kg)	排出量(kg)	
号番号	名称	廃棄	大気	水域
037	ビスフェノール A	210	0	0
080	キシレン	0.17	58	0
132	コバルト及びその化合物	270	0	0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	0	66	0
300	トルエン	0	9000	0
309	ニッケル化合物	330	0	0
321	バナジウム	85	0	0
349	フェノール	0	0	0
405	ほう素化合物	140	1.1	4400
411	ホルムアルデヒド	0	0	0
415	マンガン及びその化合物	84	0	0
446	4,4'ジアミノジフェニルメタン	95	0	0

環境関連物質については、原料および製品への含有量を把握し、含有禁止物質は使用の禁止、製品への混入を防止しています。そして削減物質についてはスケジュールを定め、削減実施しています。また、化学物質の新規使用に関してはアセスメント評価を行ない、新規使用可否を検討しています。

当社製品においては、含有化学物質に関する顧客クレームは発生しておりません。

#### 4) グリーン調達への取組み

大竹サイトで使用する主要原料である酸化鉄は、そのほとんどが鋼板の酸洗工程からの廃液から再資源化したものです。それらを使った生産活動そのものが資源の有効利用、廃棄物の削減であり社会貢献に繋がっています。

他の原料についても供給者、供給協力業者から、当社の環境への取組みについてのご理解とご協力をいただき、原料中に含まれる有害物質の管理、梱包材の簡素化・リサイクルなど環境負荷軽減活動を実施しています。輸送業者に対しても環境に関する指導を行ないアイドリングストップ運動などの活動を積極的に推進しています。また事務用品、工場備品については、エコ商品を積極的に購入しています。

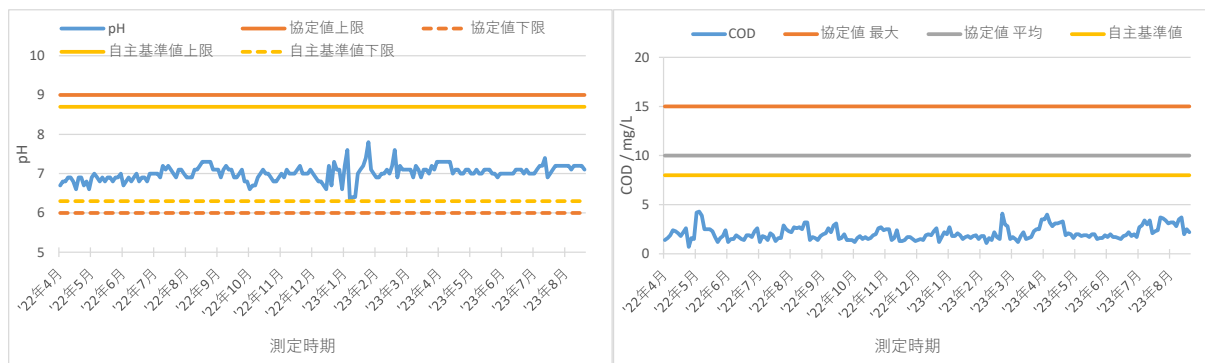
また、当社グループでは、調達方針の中で明確に「グリーン調達方針」および「紛争鉱物に関する基本方針」を定め、取引先の皆様の協力も得ながら、環境や人権に配慮した調達活動を行っています。

## 5) その他環境負荷低減のための取組み

## (1) 排水管理

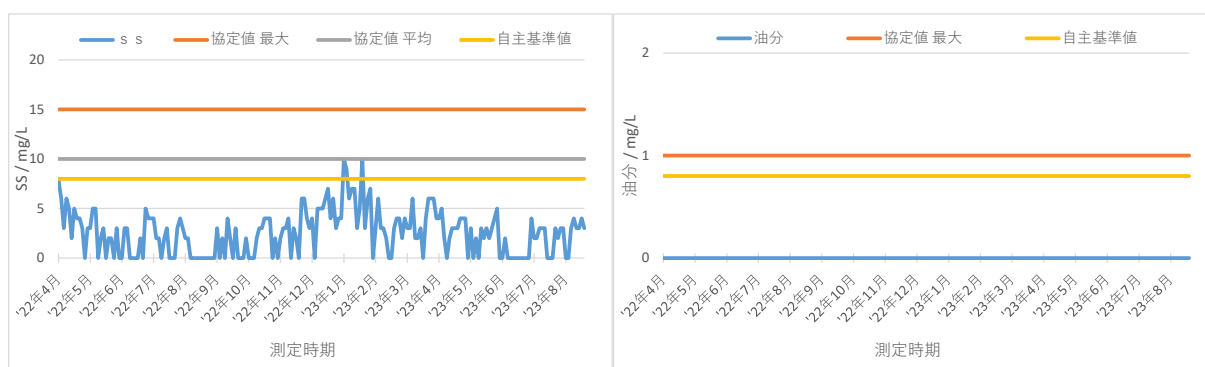
取組み内容: pH, COD, SS, 油分を3回/日×1日/週、N(窒素), P(りん), ほう素を1回/月、外部分析しています。

2022年度の結果: 広島県公害防止条約および大竹市との協定値より低く定めた自主基準値を、SSが超えた時がありましたが、すぐに対応し協定値日間平均未満でとどめています。



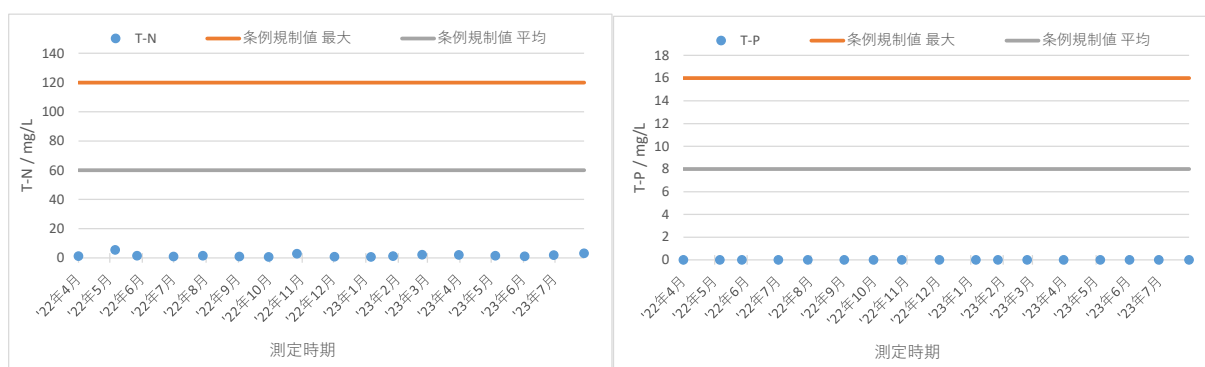
排水 pH

排水 COD(化学的酸素要求量)



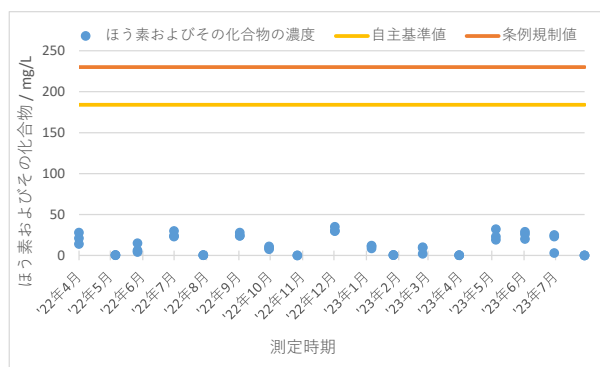
排水 SS(浮遊物質)

排水 油分(ノルマルヘキサン抽出物質含有量)



排水 T-N(窒素)

排水 T-P(りん)

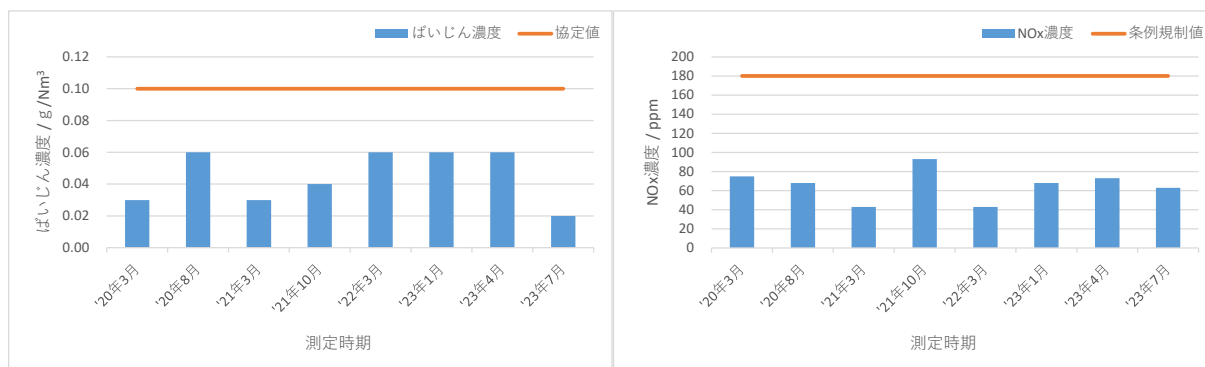


排水 ほう素およびその化合物の濃度

## (2) 大気管理

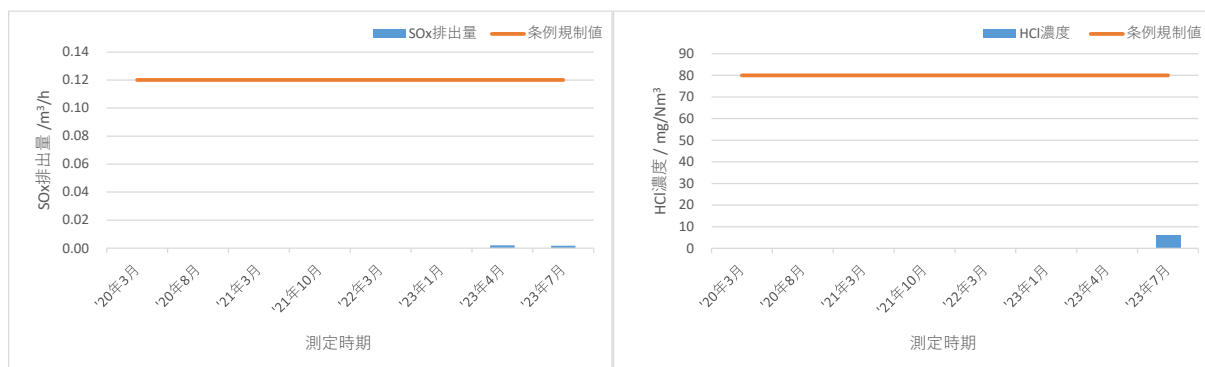
取組み内容: ばいじん, NOx, HCl を 3 回/年、外部機関にて測定しています。

2022 年度の結果: 広島県郊外防止条例および大竹市との協定値より下回っていました。



大気 ばいじん濃度

大気 NOx 濃度



大気 SOx 排出量

大気 HCl 濃度

## (3) 騒音管理

取組み内容: 騒音レベル測定を敷地境界で 4 回/年、外部機関にて計測しています。

2022 年度の結果: 各規制基準を下回っていました。

## (4) 臭気管理、振動管理

取組み内容: 1 回/週、従業員による安全パトロールにて、臭い/振動をチェックしています。

2022 年度の結果: 特に問題ありませんでした。

## 8. 環境保全のための技術・製品・サービスなどの研究開発状況

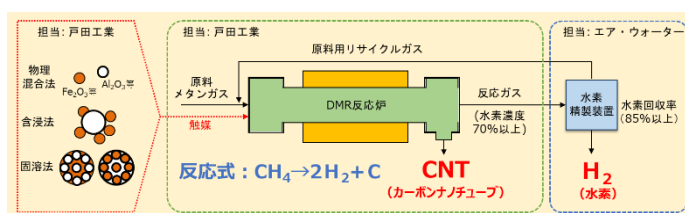
大竹サイトで製造される製品は、電機メーカー、化学メーカー、塗料メーカーなどの企業と B to B で取引しており、一般消費者の方々の目に直接触れることはありませんが、取引企業のご要求に沿ってそれぞれ個別に製品の仕様を設計し、設計の各段階でアセスメントを実施し、環境配慮チェックを確実に行うように努めています。大竹サイトにおける環境改善に貢献する研究開発事例を下記に紹介します。

### 1) メタン直接改質（DMR）法による鉄系触媒を用いた高効率水素製造システムの実用化

DMR 法による高効率水素製造システムを早期に実用化すべく、エア・ウォーター(株)と共同開発中です。当社の DMR 法は、天然ガス等を原料として鉄系触媒等の存在下で、CO<sub>2</sub> を直接排出させることなく高濃度の水素と高付加価値の多層カーボンナノチューブ（CNT）を生成するクリーンな反応です。

2021～2022 年度は、NEDO 委託事業「水素利用等先導研究開発事業」において、研究開発テーマ「DMR 法による鉄系触媒を用いた高効率水素製造システムの研究開発」に取り組み、パイロットスケール設備（連続式ロータリーキルン+水素精製装置）を用いて、99.99%以上の高濃度水素を長時間に亘って製造可能なことを実証しました。また、実機スケール設備の基本設計を行い、多層 CNT を市場価格程度で提供することで、水素製造コスト 30 円/Nm<sup>3</sup>以下を達成し、システム全体で収益確保可能なことを明らかにしました。

今回、上記成果を基に、2026 年以降の商用化に向けて開発を推進すべく、2023 年度 NEDO 助成事業「水素社会構築技術開発事業」に対して研究開発テーマ「北海道豊富町未利用天然ガスを活用した地域 CO<sub>2</sub>フリー水素サプライチェーンの構築」を提案し、採択されました。今後、3 年間（2023～2025 年度）で、豊富町のメタンを主成分とする温泉付随天然ガスを用いて、商用スケール設備による高純度水素の製造および製造した水素のサプライチェーン構築に関して実証を行う予定です。



### 2) Na-Fe 系酸化物による革新的 CO<sub>2</sub> 分離回収技術の開発

CO<sub>2</sub> 固体回収材を 2027 年度内に上市することを目標として、エア・ウォーター（株）および埼玉大学と共同開発中です。当社の Na-Fe 系酸化物は CO<sub>2</sub> を常温で吸着し、100°C 程度の加熱で放出できる特徴を有しています。「一般工場の燃焼排ガスをはじめとする低純度（10%以下）の CO<sub>2</sub> 回収ニーズ」をターゲットとし、CO<sub>2</sub> 回収コスト 2,000 円台/t-CO<sub>2</sub> を達成できる CO<sub>2</sub> 分離回収技術の開発を行います。

本年度は、NEDO 委託事業「グリーンイノベーション基金事業/CO<sub>2</sub> 分離回収等技術開発プロジェクト（低圧・低濃度 CO<sub>2</sub> 分離回収の低コスト化技術開発・実証/工場排ガス等からの中小規模 CO<sub>2</sub> の分離回収技術開発・実証）\_委託事業 2022～2024 年度」において、基礎開発（CO<sub>2</sub> 回収量増加、CO<sub>2</sub> 回収温度低下など）に取り組み、CO<sub>2</sub> 回収量を 1.5 倍以上に増加することが可能になりました。今後は実用化に向けて、量産化技術の開発も行う予定です。

また、本年 5 月には G7 広島サミットにおいて、CO<sub>2</sub> 固体回収材および CO<sub>2</sub> 回収デモンストレーション動画を出展し、大きな反響を頂きました。



## 9. 環境情報開示、環境コミュニケーションの状況

### 1) 環境活動全般に関する情報開示

ホームページ上に CSR 報告書、環境活動報告書を公開しています。

社外からの環境アンケート調査、製品 SDS の要求、問合せなどには適切に対応しています。

また、当社グループとして CDP(旧名称:カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)の CDP2022 気候変動質問書および水セキュリティ質問書へ回答し、情報公開しています。

日本化学工業協会レスポンシブル委員会の岩国・大竹地区地域対話へ参加し、地域社会とのコミュニケーションに努めています。2021 年度の地域対話は、新型コロナウイルス感染予防の観点から書面開催となりました。各企業の事業内容や安全活動を記した予稿集を作成・配布し、地域の皆様に御確認頂きました。アンケートにより頂戴したご意見・ご質問は、各企業の回答を取りまとめて配布いたしました。今後とも地域の方々との対話・コミュニケーションを積極的に推進いたします。

### 2) 製品・サービスが環境に影響を与える事項（環境側面）についての情報開示

大竹サイトから出荷される製品に関する環境情報の開示は主に SDS(安全データシート)を通じて行なわれます。大竹サイトでは SDS を常に最新に維持するよう努めています。また社外からの問合せ調査などについては迅速かつ誠意を持って回答しています。

### 3) 社内コミュニケーション

コミュニケーション内容	概要	実施時期	対象者
方針説明会	年度の環境目標～実行計画、また半期の見直し結果について、各部門・階層での使命を説明します。	4、10 月頃	全構成員
ISO 内部監査員講習	計画的に ISO 内部監査員を養成しています。	適宜	適宜
公的資格取得・外部講習参加	公害防止管理者（大気 2 名、水質 4 名、騒音・振動 1 名、ダイオキシン類 1 名）、エネルギー管理士 4 名、特別管理産業廃棄物管理責任者 2 名、産業廃棄物中間処理施設技術管理士 1 名をはじめとする各種環境関連技術資格取得などを積極的行なっています。	適宜	適宜
緊急連絡	緊急連絡体制を整備して万一の緊急事態に備えています。	適宜	適宜
その他環境情報	メール、イントラネット、掲示、朝礼などの手段で必要部門に伝達しています。	適宜	適宜



## 10. 地域との交流、社会貢献活動

大竹サイトでは、周辺緑地の整備、景観・安全の向上を進めています。

毎月サイトに隣接する国道2号線周辺のクリーン活動を実施し、また従業員のボランティア活動を支援するなど環境社会貢献活動を推進しています。



大竹サイト周辺の一斉清掃(防波堤川沿い)



大竹サイト周辺の一斉清掃(国道2号線沿い)

地域住民との交流、地域美化活動の一環として、春、秋の年2回、大竹市”花いっぱい運動”に積極参加しています。



花いっぱい運動

当社では、2008年度から広島県、山口県の小中学生を対象とした理科出前授業・イベントや工場見学会を実施しています。2022年度は依然としてコロナ禍は続いておりましたが、小学校5校において、感染防止対策を取りつつ、出前授業を実施することができました。素材や磁界の形・向き異なる永久磁石に触ったり、永久磁石と電磁石を組み合わせた簡単手作りモーターを作ったりすることで、永久磁石や電磁石の働きを体験してもらうとともに、磁石を使った製品が身近な生活で役立っていることを学んでもらいました。



広島市立吉島東小学校での理科出前授業の様子  
(一般社団法人 広島県発明協会様からご提供)

大竹サイトでは、健康な我々の血液が、病気やけがの治療のために輸血や血液製剤を必要とする数多くの人達に届くよう2回/年の献血活動を行っています。



献血活動

以上